



「有価買取」と「商品廃棄・セキユリティ」

「イ」はリサイクルと廃棄物処理のキーワードとして、あらた

めてビジネスにおけるPRポイントになりつつある。

一見、二律背反のこの二つのキーワードだが、共通しているものがある。それ

は廃棄物処理・リサイクルについて、「付加価値」が付くという点だ。

「有価買取」が近年、廃棄物関連ビジネスの際の売り文句

ある廃棄物処理業者はこう言った。「廃棄物処理」ビジネスの分野でも、今

有価買取と商品廃棄

売防止やブランド保持が「付加価値」になる。

になっているのは、日本では廃プラとして処分されていたものやカステードリサイクルされていたものが、中国などで再生プラ原料として有

の時点でキャッチーな営業の切り口は「有価買取」だ。もちろん、すべての廃棄物が有価物としてまわせる訳ではない。その実が、廃棄

物の中の有価物を買取ります。であって、場合によっては、廃棄物として処分費が必要なものもあるが、それを相殺して全体的には有価物として

だが、これはプレコシニューマーのものであるが廃棄処分するものを意味する。数ある廃棄物の中でも、会計上、別の扱いが必要になる。転

あらためて「商品廃棄」が注目されているのは、少量多品種生産で次々と商品が入れ替わり、陳腐化しているという背景がある。(中)